

資料 2

平成20年度長野県国民保護共同実動訓練 訓練概要、成果・課題

平成21年1月20日
長野県危機管理部危機管理防災課

平成20年度長野県国民保護共同実動訓練の特徴

- 松本サリン事件を経験した長野県での化学剤を想定した実動訓練
- 病院における本格的医療救護活動訓練（長野赤十字病院での訓練）
- 実践に即した避難所運営訓練（地元医師会の参加／要援護者の救援）
- 都市部（県庁所在地）での初めての大規模な住民避難訓練（369人）
- 訓練参加機関と参加者総数が過去最大（196機関・1718名）
- 松本純内閣官房副長官が現地入りし、政府現地対策本部長として指揮
- 河村建夫内閣官房長官とのテレビ会議の実施
- 模擬記者会見など報道対応訓練の実施

訓練の構成、目的

【構成】

- 実動訓練
- 審議訓練
 - 図上訓練
 - 災害対策本部会議等運営訓練

【目的】

- 平成19年度の図上訓練の成果と課題を踏まえながら、国民保護計画の検証、確認等を行う。
- 関係機関相互の機能確認及び連携を図る。
- 国民保護に関する対処能力の向上を図る。
- 国民保護措置に対する住民の理解を図る。

実施日時、参加機関

1. 実施日時
平成20年11月26日（水） 9:00～13:00
2. 主な参加機関
 - (1) 主催
内閣官房 長野県 長野市
 - (2) 指定行政機関、指定地方行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関
警察庁、消防庁、文部科学省、厚生労働省、日本赤十字社長野県支部 長野県医師会、放送事業者等
 - (3) 警察、消防
長野県警察本部、長野市消防局、松本広域消防局、長野市消防団他
 - (4) 自衛隊
陸上自衛隊、航空自衛隊、自衛隊長野地方協力本部
 - (6) その他関係機関
長野赤十字病院

訓練のシナリオ概要

9:00 【訓練開始】
テログループがビッグハットで化学剤を散布し、逃走

9:05 消防、警察、DMAT、自衛隊等が救助・救護活動開始

9:35 長野赤十字病院にて医療救護活動開始

10:10 テログループが化学剤を所持し、JR長野駅に立てこもり

10:30 緊急対処事態が認定、警報発令、避難措置、救援指示

11:10 政府、県、市、関係機関による合同対策協議会（第1回）

11:30 長野駅周辺の住民が避難を開始

12:00 避難住民が市民会館、若里公園に到着、救援開始

12:40 合同対策協議会（第2回）。（官邸とのTV会議実施）

13:00 【訓練終了】

訓練想定

10:10 テログループが化学剤を所持して、駅施設内に立てこもり

9:00 テログループによる化学剤散布事業発生、負傷者多数

（想定）テログループの逃走

ビッグハット



18



19



20

JR長野駅 テログループ立て籠もり事案対応訓練
 時間: 10:10~10:40
 内容: テログループが駅施設内に立てこもったことに伴う対応訓練

JR長野駅コンコース
 テログループ立てこもり

21



22

長野駅周辺地区、市民会館、若里公園(住民避難、救援訓練)
 時間: 10:30~13:00
 内容: ビッグハット被災者(非曝露者)及び長野駅周辺住民の避難、救援

<凡例>
 ● 避難所(市民会館・若里公園)
 ● 一時避難場所(若里公園へ)
 ● ビッグハットでの非曝露者の避難(バス)
 ● 長野駅周辺から受援者の避難(福祉バス)
 ● 長野駅周辺からの避難(徒歩)

11:45 一時避難場所から避難開始
 12:00-15 若里公園に到着

10:35 受援者 福祉バスにて避難開始
 10:50 市民会館に到着

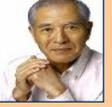
9:35 非曝露者を搬送
 10:00 市民会館に到着

23





首相官邸、長野県庁(合同対策協議会、TV会議)
 時間: 11:10~11:20、12:40~13:00 (官邸とのTV会議は、12:40)

 内閣官房長官 河村 建夫 総理大臣官邸	TV会議 	 内閣官房副長官 松本 純	 長野県知事 村井 仁
		 長野市長 鷲澤 正一	

35



訓練の成果及び課題

【成果】

- ・ 初めての実動訓練であったが、警察、消防、自衛隊等による初動対応の確認ができた。
- ・ 医療救護訓練においては、医療機関の協力を得て、実践的な訓練ができた。
- ・ 国、長野市とともに合同で会議を開催するなど、実践に即した訓練ができた。
- ・ 参加された多くの方々に、国民保護に関する理解を深めていただいた。

【課題】

- ・ 関係機関相互における正確な情報共有が不可欠であり、十分な留意が必要である。
- ・ 住民等への迅速な情報提供が重要であり、さらなる検討が必要である。
- ・ 国民保護に対する県民理解をさらに深めるため、周知・啓発に努める必要がある。

【実動訓練に関する主な意見】

- ビッグハットにおける化学剤散布対処訓練
 - ・ 現地調整所を統制する機関が不明確な面もあったが、各機関の相互理解が図られる貴重な機会だった。
 - ・ 化学剤に汚染された患者に対する医療救護の一連の流れが検証できた。
- JR長野駅における立て籠もり対処訓練
 - ・ この場所での訓練で、多くの県民に対し、国民保護について、広報・普及啓発ができたのではないかと。
- 市民会館及び若里公園における避難・救援訓練
 - ・ 多数の市民の協力を頂き、避難・誘導訓練が円滑に実施できた。

【審議訓練に関する主な意見】

- 県対策本部運営訓練・図上訓練
 - ・ テロなどの有事の際、初動措置など手順を確認しながら円滑に対応できてよかった。
 - ・ シナリオをオープンにした訓練であり、判断や調整事項など既に決定されていたものもあり、緊張感に欠けた面があった。
 - ・ 放送事業者への法定通知の発出について、受信に時間がかかるなど、情報伝達体制に課題があった。
- 合同対策協議会
 - ・ 官邸とのテレビ会議は、実践的に行われた。

【参加住民等からの主な意見】

- ・ 内容をよく理解しないで参加した。後で新聞等を見て勉強した。もっと事前にアピールした方がいいと思う。でもこのような訓練はとても大切だと思った。
- ・ 国民保護法についての啓発活動をもっとしてほしい。また、訓練前に法律や訓練の趣旨について、分かりやすく説明する機会を設けてほしい。
- ・ 避難行動中においても、現在の状況・情報を伝える工夫をお願いしたい。
- ・ 参加して思ったことは、慌てず落ち着いて行動し、誘導に従って避難することが大切だということ。
- ・ 松本サリン事件の悲劇を風化させないためにも、一人一人自主的に危機管理を重視し、いざというときの事態にしっかりと心構えを身につけたい。